

私たちがわたしたちの



私を含めた大人の多くは、「若いうちにもっと勉強しておけばよかった。だから、君たちも勉強しよう。」と言います。この考えは、決して間違っていない。ただ、皆さんが、この考えを理解できるかというと、なかなか難しいようですね。それは、皆さんにとっては、社会に出るということ、働くということまで、まだ遠い先のように感じるからです。そんな皆さんに、大人たちも、なぜ勉強した方がいいのかを分かりやすく説明することがなかなかできません。勉強の大切さは十分にわかっているのですが、どうしても必要なか、どうやって社会とつながっているのかをなかなか上手に説明できないものなのです。でも、どんな大人も皆さんにこのことを分かってほしいと思っています。ぜひ、自分の進路を考える時や、勉強へのやる気がイマイチわかない時には、アドバイスをしたいと思っています。そんな願いを込めて、今号から、『16歳の教科書2「勉強」と「仕事」はどこでつながるのか』(講談社)という本を紹介する連載企画のスタートです。小学校低学年の人には、まだ先の話で、少し難しいかもしれませんが、家の人たちといっしょに読んでみてください。

1時間目 16歳の「ドア」を開けよう!

奇跡のジャズシンガー綾戸智恵

●心のドアを開けるのは自分
わたしは17歳、高校3年生の6月にアメリカに渡りました。いまよりもずっと海外旅行が珍しく、難しかった時代です。向こうに知り合いがいたわけでもないし、どこかの学校に留学したわけでもない。そのせいで「綾戸智恵、17歳でアメリカに音楽修行の旅に出る」とか、カッコよく紹介されることあるけれど、全然、音楽修行なんかじゃないの。ただアメリカに行きたかっただけ。「アメリカに行つてコレをやろうー!」じゃなくって、「アメリカに行こうー!」だったから、目的がないのはその通り。でもね、わたしはそれを少しも「悪い」とは思わない。いいじゃん、目的なんかなくても。若さにかまけて、「とにかく行きたい!」だけで動いても。当時のわたしは、とにかく「ドア」を開けたかったの。ドアといつても「心のドア」のことだから、目には見えないよ。そして、ドアの向こうになにかあるかなんて知らないし、考えてもわからない。でも、「このドアを開ければなにかがある!」って信じてた。息苦しい毎日が、なにか変わるんだ、光があるんだと思ってた。この感覚、なんとなくわかるよね? そして人生って、大事なドアは自分の手で開けなきゃいけないの。

●学校の勉強は「心の体育」

映画が好き、音楽が好き、そして外国が好き。そんなわたしは、学校が嫌いでした。人気者だったし、友達もたくさんいたよ。でも嫌い。理由はひとつ、みんなで揃って同じことをするのがイヤだったの。たとえば数学が好きな子は、数学の時間って楽しいよね。社会が好きだったら、社会の時間が楽しい。でも、残念なこと、わたしが好きなのは音楽。そして音楽は週に2回しかない。あとはずーっと好きじゃない授業を受けなきゃいけない。毎日、毎時間が音楽だったら、どんなに楽しいだろうと思っていた。

でもね、これはあとになってからわかったんだけど、そういう経験が大切な。つまり、音楽が好きなのに、アメリカに行きたいのに、みんなといっしょに国語や数学をやっていると、時間が、その「やらなきゃいけないことをやる」という行為が。

これはね、お勉強とは違う「心の体育」なの。

学校では、頭を鍛えるんじゃないよ。心を鍛えてるのよ。

たとえばわたし、これまで長いことを生きてきて、CO₂とかH₂Oとかの分子式、使ったことはないわよ。これから先も使わないと思う。

じゃあ、化学はいらんのかというと、そうじゃない。大切なのは「学校でみんなとそれを勉強した」という事実、時間、経験なの。

ただ、学校にいと「嫌いな勉強をどうやってこまかすか」とか、「どうやってサボろうか」とか、「どうやって先生か

ら気に入られるか」とか、真剣に考えるでしょ? こういう知恵を働かすのも、広い意味での勉強なのよ。だから学校というのは「知識」を詰め込む場所じゃなく、生きるための「知恵」を育てて行く場所。

『16歳の教科書2』(講談社)より一部を改変して引用

この職業を探せ!

前号の正解は、自転車整備士でした。

21 教室に貼ってある「13歳のハローワークマップ」の中から、次のヒントに合う職業を探してね。正解が分かったら応募用紙に書いて、名教ポストに入れよう! もちろん、正解者には、ガチャマシンメダルをプレゼント! (正解者多数の場合は、抽選)

【ヒント1】動物の世話、繁殖や種の保存などの研究、施設の維持や客に対する配慮まで、動物と人が快適に過ごすことができるようにさまざまな仕事をする。

【ヒント2】獣医、畜産、農業など、動物に関わる学校で勉強することが必要。

【ヒント3】ものをいわない動物の心を読み取り代弁する仕事なので、動物が好きだけでなく、コミュニケーション能力や広報・教育的な観点、人間に対する愛情がある人が望ましい。

参考: 13歳のハローワーク公式サイト (<http://www.13hw.com/>)



「喜びの歌」

よろしく! ルートビッチ その5

交響曲第9番 「合唱付き」

師走が近づいてきました。この時期になるとなぜか日本中で聞く機会が多くなるクラシックの名曲があります。ルートビッチ・バン・ベートーベン作曲の交響曲第9番です。「第九」と呼ばれています。

「第九」はルートビッチさんが作曲した最後の交響曲で、それまでの交響曲の常識を打ち破った傑作です。交響曲は器楽曲というのが常識でしたが「第九」の第4楽章には合唱と4人の独唱が加わります。この合唱と独唱がドイツの詩人シラーの「歓喜に寄す」という詩を、重厚なオーケストラの響きとともに感動的に歌います。その一部、「喜びの歌」のメロディーはみなさんも知っていますね。「第九」は、人間の声を使うことでルートビッチさんのメッセージを聞く人の心により強く伝えていきたいと思います。理由はともかく12月にこの曲を聞くと、私は「今年もいろいろあったけど、がんばってきたよ!」と1年を締めくくり、「希望を持って新しい年を迎えよう!」という前向きな気持ちになります。私だけでなく、多くの人がそんな感動を感じているから毎年演奏されるのかなと勝手に思っています。この曲から次への希望を感じるのは日本人だけではないようです。第二次世界大戦が終わったときやベルリンの壁が崩壊したときにもこの曲が演奏されました。最近では東日本大震災のニュースを聞いたドイツのオーケストラが被災地の復興を願ってこの曲を演奏しました。まさに世界中の人に希望と感動を与える曲なのではないでしょうか。

この曲の聞きどころは第4楽章。合唱が「喜びの歌」を歌うところです。今年の12月も「第九」のコンサートが何回かあります。是非、会場で聞いてください。テレビでもNHKなどで放送がありますからみてください。また、なぜこの曲が12月によく演奏されるのかは、「日経おとなのOFF 12月号『第九入門』」という本に書かれているので興味をもった人は読んでみてください。



ルートビッチさん

(手島)